

第20回 メディエンスFORUM2023

ノンテクニカル スキル

医療安全・業務効率化
のための具体策

LSIメディエンス



2023年
7月8日 (土)
14:00～17:00 (13:30 開場)

会場
神田明神ホール 定員100名

web
オンデマンド配信
配信期間：7月下旬～8月31日(木)

LSIメディエンス



第20回 メディエンス FORUM2023

演題およびタイムスケジュール

14:00 }	開会
	<p>座長 木村 聡 先生 昭和大学横浜市北部病院 内科系診療部門 臨床病理診断科 教授</p> <p>海渡 健 先生 東京慈恵会医科大学 臨床検査医学講座／附属病院 中央検査部 教授</p>
14:10 }	<p>講演 1 ノンテクニカルスキルを活かせるチームングと心理的安全性 ～チームが上手く機能するポイント～</p> <p>演者 海渡 健 先生 東京慈恵会医科大学 臨床検査医学講座／附属病院 中央検査部 教授</p>
14:50 }	<p>講演 2 ヒューマンエラーを防ぐ着眼点と発想 ～ノンテクススキルを活かす仕組み～</p> <p>演者 田中 健次 先生 電気通信大学 産学官連携センター 特任教授／副センター長</p>
15:30 }	<p>講演 3 組織を動かすノンテクニカルスキル ～一人ひとりが身につけたいロジカルな考え方～</p> <p>演者 佐藤 和弘 先生 メディカルアートディレクター</p>
16:10 }	休憩
16:20 }	総合討論
17:00	

座長 PROFILE

木村 聡 先生 昭和大学横浜市北部病院 内科系診療部門 臨床病理診断科 教授

- 1984年 新潟大学医学部医学科卒業
新潟大学医学部附属病院 検査診断学教室 研修医
- 1985年 東京通信病院 レジデント
- 1988年 米国ワシントン大学 senior research fellow
- 1993年 医学博士（新潟大学）
昭和大学医学部 臨床病理学教室 助手
- 1995年 昭和大学医学部 講師
- 2001年 昭和大学横浜市北部病院 臨床検査部長
- 2002年 昭和大学横浜市北部病院 助教授（2007年より准教授）
- 2013年 昭和大学横浜市北部病院 内科系診療センター 臨床病理診断科 教授
- 2020年 昭和大学富士吉田教育部 教授（併任）

〈所属学会〉

- 日本臨床検査医学会（日本専門医機構認定臨床検査専門医）
- 日本感染症学会（評議員、指導医）
- 日本臨床化学会（評議員）、日本医療検査科学会（評議員）
- 米国臨床化学会、米国臨床病理学会

座長 PROFILE

海渡 健 先生 東京慈恵会医科大学 臨床検査医学講座／附属病院 中央検査部 教授

- 1983年 東京慈恵会医科大学 医学部 医学科卒業
- 1987年 東京慈恵会医科大学 大学院 医学研究科単位取得
- 1987年 東京慈恵会医科大学 附属柏病院総合内科 助手
- 1990年 東京慈恵会医科大学 第二内科学教室 助手
- 1998年 東京慈恵会医科大学 臨床検査医学講座 講師
- 2005年 東京慈恵会医科大学 臨床検査医学講座 准教授
- 2014年 東京慈恵会医科大学 臨床検査医学講座 教授

〈所属学会〉

- 日本臨床検査医学会（評議員、日本専門医機構認定臨床検査専門医）
- 日本内科学会（総合内科専門医、認定内科医）
- 日本血液学会（評議員）、日本検査血液学会（評議員）



ノンテクニカルスキルを活かせる チームングと心理的安全性

～チームが上手く機能するポイント～

演者 海渡 健 先生 東京慈恵会医科大学 臨床検査医学講座／附属病院 中央検査部 教授

多くの医療事故にノンテクニカルスキル（NTS）不足が関与しているため、SBAR、アサーション、2チャレンジルール、ブリーフィングなどのコミュニケーションを主体とするトレーニングが行われている。しかし、いずれも自分の気づきや考えを積極的に発信することが前提になっているため、自由に発言できない環境では使いこなせない。今回は、チームのNTSとも言えるNTSを活かせる環境をつくるために必要なチームングと心理的安全性について共有したい。

多職種からなるチーム医療と言われるが、医療現場でのチーム活動の特徴についてはあまり考えられていない。通常イメージされる野球やサッカーなどのチーム活動と医療現場でのチーム活動を比較してみる。前者では、名前や性格などがわかる固定メンバーで目的に向かって一定期間練習し、決められた目標を達成するための活動が行われている。それに対し後者では、病院の規模にもよるが、名前や性格がわからないメンバーが突然小さなチームを形成し、練習なしにその時々の課題を解決するという活動が、メンバーや場面を変えながら時間軸に沿って連続的に続けられ総合的な医療活動につながっていく。構造的には多職種からなるチーム医療だが、機能的には単職種、2職種からなる小さなチームが重なり合いながら機能していくのが医療現場でのチーム医療の特徴である。このような形態はチームングと呼ばれており、医療現場や昨今の複雑な業務においてしばしばみられるチーム活動形態である。チームングでは、その都度構成されるチームで自分の知識や気づきなどを発信しながら協働して複雑な仕事を完遂するため、こんなことを言ったら何か言われるのではないか、間違っていたら無能と思われてしまわないか、などとネガティブに考えてしまう環境ではチームングの効果が上がらない。効率的なチームングには自分の発言や行動に対する相手の反応を気にすることなく、相手の立場を理解するエンパシーを持った、気兼ねなく発言・行動できる心理的安全性と呼ばれる雰囲気醸成が大前提となる。

安全性や労働生産性の向上、組織の強化発展、社会からの信頼確保のためには、管理者が医療現場ではチームングという活動形態がとられていること、効率的なチームングには心理的安全性が必要であることなどを理解して、組織としてNTSの習得だけではなく、NTSを活かせる環境形成につとめることが必要となる。

PROFILE

かいと けん
海渡 健 先生 東京慈恵会医科大学 臨床検査医学講座／附属病院 中央検査部 教授

1983年 東京慈恵会医科大学 医学部 医学科卒業
1987年 東京慈恵会医科大学 大学院 医学研究科単位取得
1987年 東京慈恵会医科大学 附属柏病院総合内科 助手
1990年 東京慈恵会医科大学 第二内科学教室 助手
1998年 東京慈恵会医科大学 臨床検査医学講座 講師
2005年 東京慈恵会医科大学 臨床検査医学講座 准教授
2014年 東京慈恵会医科大学 臨床検査医学講座 教授

〈所属学会〉

日本臨床検査医学会（評議員、日本専門医機構認定臨床検査専門医）
日本内科学会（総合内科専門医、認定内科医）
日本血液学会（評議員）、日本検査血液学会（評議員）

〈代表論文〉

1. 医療安全のさらなる推進に向けて、病院における医療安全管理体制、特定機能病院の取り組みを通して。公衆衛生 77: 526-30, 2013.
2. 患者安全を高めるチーム医療。TeamSTEPPSを活用したノンテクニカルスキル向上策 ～HRO (High Reliability Organization: 高信頼性組織) になるための取り組みから～。臨床病理 63: 855-863, 2015.
3. 医療現場におけるヒューマンエラーの現状および特徴。Medical Technology 44: 1360-9, 2016.
4. 医療現場におけるヒューマンエラーとその対策～人の思考特性とノンテクニカルスキルの重要性～。日本臨床検査専門医会誌 Laboratory and Clinical Practice 36: 26-9, 2018.
5. 検査結果の非共有による医療事故の現状とそれを防ぐための確実なパニック値連絡。臨床病理 66:783-9, 2018.
6. 人の思考特性と安全を確保するノンテクニカルスキル。臨床病理 67:117-25, 2019.

〈代表著書〉

1. チームステップス（日本版）医療安全。メジカルビュー社 2012年。
2. 東京慈恵会医科大学附属病院看護部・医療安全管理部編著。ヒューマンエラー防止のためのSBAR/TeamSTEPPS。日本看護協会出版会 2014年。
3. 重大事故発生後の院内対応（病院管理者）。一般社団法人日本臨床医学リスクマネジメント学会監修。医療安全管理実務者標準テキスト。へるす出版、2016年。
4. 医療コミュニケーション学。公益社団法人日本視能訓練士協会監修。和田直子他編集。視能検査学。医学書院、2018年。
5. チーム医療。大鹿哲郎、南雲 幹編集。眼科プラクティス6 視能訓練士スキルアップ—これこそ座右の銘—。文光堂、2022年。
6. 患者対応に必要なコミュニケーション。大鹿哲郎、南雲 幹編集。眼科プラクティス6 視能訓練士スキルアップ—これこそ座右の銘—。文光堂、2022年。



MEMO

Blank lined area for notes on page 10.

MEMO

Blank lined area for notes on page 11.